

東京農業大学農大本校

学校だより【7月19日】第17号



行ってきました 第一回伊豆宿泊学習 (2組)

1年2組の子どもたちとその保護者の皆様が参加して、7月13日(土曜日)と14日(日曜日)に伊豆宿泊学習が実施されました。先週の1組に続いての宿泊学習です。梅雨の最中で、先週と同様に雨模様、さらには三連休の初日ということで、道路渋滞もありましたが、無事に全日程をこなすことができました。

保護者のバスでは、渋滞での遅れを利用して保護者同士の自己紹介。子どもたちの思いがけない面を発見したり、親子の相似に思わず微笑んだりの楽しいものでした。本校の宿泊学習は、保護者の皆様は同行しましたが、バスも、食事も別々、宿泊する部屋も別々です。子どもたちは自分で荷造りし、洗面、食事、入浴、そして就寝とよくがんばりました。もちろん、靴下が片方だけ行方不明になる、浴場にタオルを持ってくるのを忘れる、ベッドの上でジャンプしているのを発見されるなど、引率の先生方は大忙しでしたが……。

食後のクラスの時間は、担任の先生を囲んでの楽しいひと時です。お話を聞いたり、クラスひとまとまりでゲームをしたりする子どもたちのまなざしは先生にまっすぐ向かっていました。また、朝食には、先週に続いて「鱈のひらき」が登場。1年生の子どもたちにとってはハードルがやや高いものですが、中には普段から食べなれているのか、箸で上手に食べられる子どももいます。友だちにつられて、初めて魚の干物にチャレンジし、「おいしいよ」と教えてくれる子どももいました。どうしても食べるのが難しそうなお子様には、ひっくり返して食べやすい場所を教えるだけでも、箸をつける様子が見られました。伊豆の名物の一つは魚の干物でもあります。バスの中でも先生から魚の干物について説明を受けていましたので、子どもたちもしっかり勉強できたことでしょう。

伊豆宿泊学習では、[伊豆シャボテン動物公園](#)と[熱川バナナワニ園](#)を訪問し、宿泊は[桜美林学園伊豆高原クラブ](#)を利用させていただきました。たくさんの方々に見守られて安全に宿泊学習ができたことに感謝しています。

食育ウィーク!

山梨県南アルプス市の桃、沖縄県石垣島や宮古島のマンゴー、茨城県阿見町からの大玉スイカ、と、先週の稲花小学校は食育ウィークでした。子どもたちと保護者の皆様も、それぞれにおいしい味を楽しみ、それぞれの産地や生産者に思いを馳せたことでしょう。様々な食材に触れ、また、その食材を彩る様々な背景を知ることは、食育の第一歩。様々な食の経験が、これからも子どもたちの心に、少しずつ、しかし、深く刻まれていくことでしょう。

来週、終業式(あるいは保護者面談日)には、東京農大の卒業生のご紹介により[ポーソー油脂株式会社](#)からご提供いただいた「米油」を配布いたします。本校ということで、稲やお米について学ぶ機会が多いのですが、配布する米油は国産の「米ぬか」からできています。米ぬかってなにか？米油ってほかの油と味はどう違うのかな？保護者やご家族の皆様のご指導も得て、子どもたちの興味が広がることを期待しています。



一学期も間もなく終わりますが、本校の食育にご協力いただいている連携地域や企業、さらに卒業生などご関係者の皆様には改めて御礼申し上げます。

勉強も進む

本校は体験を重視する教育を行っていますが、当然ながら教室での普段の勉強も着実に進めています。教室できちんと先生の話が聞くことができる、友だちの意見を聞いたり自分の考えを言ったりすることができる、そして、45分の授業に集中して取りくめる力は、学力の基礎となるものです。大人はどうしても学習の「先取り」に気を取られ、先に進むこと、早く進むことを目指してしまいがちです。また、回数をたくさんこなすことだけを重視してしまうかもしれません。子どもたちがじっくり学ぶ様子を、大人は辛抱強く見守る必要がありますね。終業式には、本校の子どもたちも成績表を受け取ります。稲花小学校の教育の指標としての「10の能力」がどのくらい得られたのか、子どもたちの成長を見ていただきたいと思います。

しかし、算数では「数」など算数の基本となる概念を体得することが、最終的には本当の算数力につながります。「国語」でも文字を良く見てじっくりと書いたり、それを使ってみたりすることは、空っぽの心で文字を何回も書いてみたり、機械的に新しい文字を記憶することに勝るのではないのでしょうか。

4月の入学以来、めきめきと真の学力をつけてきている本校の子どもたちにも、毎日の授業を大切にすることを指導していきたいと思っています。

校長 夏秋 啓子